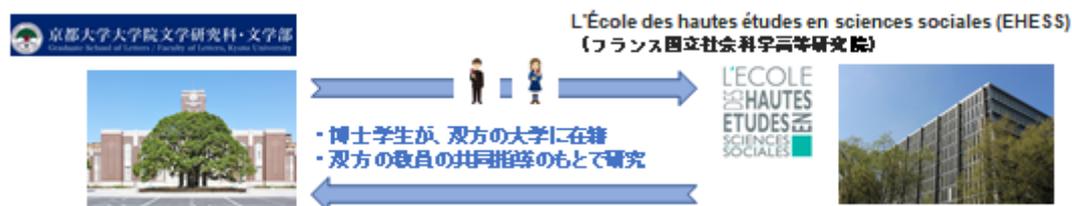


京都大学(文学研究科)とフランス国立社会科学高等研究院(EHESS)の国際コチュテル



I プログラムの概要

京都大学文学研究科は2020年4月よりフランス国立社会科学高等研究院(EHESS=L'École des hautes études en sciences sociales)とのダブルディグリープログラム(コチュテル型・単一論文型)を開始しました。

学生は、本研究科の博士後期課程とEHESSの博士課程の双方に正規学生として所属(入学し、プログラム履修期間3年(標準)の半分ずつを京都大学とEHESSにて研究に従事し、両大学の教員による共同指導を受けます。一本の博士論文を提出して合同の審査に合格し、双方の学位規程に則って必要な手順を踏むことで、以下に記した二つの学位を取得できます。

京都大学学位:博士(文学) EHESSとの共同学位であることを学位記に付記

EHESS: DOCTORAT EN COTUTELLE INTERNATIONALE entre l' Université de Kyoto (Japon), et l' École des hautes études en sciences sociales (France)

EHESSは周知のように歴史学を基盤とした社会科学の再編成を目指して設立された国際的に著名な研究機関であり、人文学と社会科学の両方を含む京都大学文学研究科と専門分野の構成にも共通性があります。学生は双方の教員の指導を受け、双方の資源を活用することで、グローバルな視野をもつ高度な研究を行うことが可能になり、国際的に活躍する研究者となることが期待されています。

※京都大学から出願する学生は、原則として本学のみで学費を支払い EHESS への支払いは免除されます。

* 国際コチュテル (International Cotutelle)とは

国際コチュテルとは、博士課程学生の研究指導を海外の大学と共同で行い、学生・教員のモビリティを促進し学術連携を深めるプログラムです。

学生は、双方の博士課程に所属(入学)し、両大学の教員による共同指導を受けます。学位に関しては、一般的に、一方のみから学位を授与され他方と共同指導を行ったことが学位記に付記される「シングルディグリー型」と、双方から学位を授与される「ダブルディグリー型」がありますが、京都大学がこれまでに設置した国際コチュテルプログラムはすべて「ダブルディグリー型」であり、理学研究科、エネルギー科学研究科に続き、文学研究科が3つ目となります。

コチュテルプログラムを実施することにより、学生は双方の大学の資源を活用しより高度な研究を行うことが可能になるほか、国際的な研究環境で経験を積み、博士課程修了後の活躍の機会を広げることができます。また、指導教員間の国際共同研究の促進も期待されます。

欧州の大学では学生の流動性が高く、コチュテルはフランスを中心に、アジアやアフリカ地域とも広く行われています。フランスにおけるコチュテルの制度の詳細は[こちら](#)(英語)。

*** フランス国立社会科学高等研究院(EHESS=L'École des hautes études en sciences sociales)**

歴史学、人類学、社会学、経済学、政治学、法学、アフリカ・アジア地域研究等を擁する教育・研究機関です。博士課程約2000名を擁する欧州最大規模の人文社会科学領域の大学院を有しています。社会史のアナール学派、経済学のレギュラシオン学派の本拠地であり、2014年ノーベル経済学賞受賞者 Jean Tirole や、『21世紀の資本』の著者 Thomas Piketty などの著名な研究者を擁しています。

現代日本研究所(Centre de recherches sur le Japon contemporain)、日仏財団(Fondation France-Japon de l'EHESS)、パリ日仏高等研究センター(Centre d'études avancées franco-japonais de Paris、CEAFJP)などもあり、日本研究でも重要な国際拠点となっています。

2020年にはEHESSを含むパリの11の人社系大学が集結し(キャンパス・コンドルセ)、複数機関の研究者が横断的に資料を共有できる環境が整備される予定です。

II 出願から国際コチュテルプログラム開始まで

(京都大学文学研究科博士後期課程に入(進)学し、EHESSとのコチュテルを希望する学生の場合)

- ・出願資格は京都大学文学研究科博士後期課程の正規学生であること。
- ・学生は双方の指導教員候補者から指導内諾を得たうえで、国際コチュテル協議会(後掲)にプログラム開始を希望する概ね5ヶ月前までに出願の意向を伝える。
- ・プログラム参加のための京都大学側の選考に通った学生は、EHESS博士課程の入学審査のための登録を行い、審査に合格すればEHESS博士課程に入学する許可を与えられる。
- ・EHESS博士課程の入学許可を得た学生は、双方の指導教員候補者および国際コチュテル協議会と相談しながら、研究計画、指導教員、相手大学における滞在期間、提出する論文の言語などを定めた国際コチュテル協定(INTERNATIONAL THESIS CO-SUPERVISION AGREEMENT、以下

ITCSAと略す)を作成する。

・ITCSAを締結(京都大学は文学研究科(研究科長名)、EHESSは全学(学長名)で署名)することにより、ITCSAで定めた時期より博士論文国際コチュテルプログラムが正式に開始される。

Ⅲ 標準的履修スケジュール

京都大学文学研究科博士後期課程入(進)学の半年後に国際コチュテルプログラムを開始する場合のスケジュールを図示する。

・本プログラムの標準的履修期間は3年間であるが、京都大学文学研究科の学生の場合は、文学研究科における学位授与が3月のみであるため、現行規則のもとではプログラム履修期間3年の後、半年間の論文審査期間を設けることになる。



Ⅳ 国際コチュテル協議会

協議会メンバーは以下のとおり。

京都大学側運営委員： 松田素二教授

京都大学側研究指導委員： 落合恵美子教授

EHESS側運営委員：Ms Caroline CHU

EHESS側研究指導委員：Prof. Sabina LORIGA

V プログラムの詳細

本プログラムの詳細については[こちら](#)を参照してください。

VI 参考情報

1) フランスにおける博士課程奨学金

下記の奨学金は、フランスの高等教育機関の博士課程に進学する学生が活用できます。

・フランス政府奨学金留学生（文系）

<https://jp.ambafrance.org/article3995>

・エッフェル奨学金 —Bourses Eiffel—（理工学、経済・経営、法学・政治学分野）

<https://www.campusfrance.org/fr/le-programme-de-bourses-d-excellence-eiffel>

2) 京都大学における国際共同学位プログラムについて

京都大学におけるコチュテルは、「[外国の大学との共同学位プログラムの実施に関する規程](#)」（第3条）において「ダブルディグリー（単一論文型）」として位置付けられています。

通常のダブルディグリープログラムでは、内容の異なる学位論文をそれぞれの大学に提出し、それぞれの大学で学位審査を行い学位を授与するものになりますが、コチュテルプログラムでは、同一の内容の論文をそれぞれの大学で審査し、共同の学位を授与するものです。

京都大学における国際共同学位プログラムについては、以下のようなものがあります。

・京都大学ウェブサイト：[国際共同学位プログラム（ダブルディグリー、ジョイントディグリー）](#)